

素 顔 拝 見



予防歯科学分野

高 昇 将

助教に就任して

2020年4月1日付けで予防歯科の助教を拝命いたしました、高 昇将（たか のりまさ）と申します。この度「素颜拝見」の執筆の機会を頂戴しましたので、この場をお借りして自己紹介させていただきます。

出身は新潟市東区で、小学校から大学まで進学先が白山から西大畑周辺に固まっており、生まれてから今まで行動範囲がほぼ変わっていない生活を送っております。学部学生の基礎実習で勉強していた頃は補綴が苦手だったのですが、臨床実習を通して補綴に興味を持ち始め、卒後の大学院では生体歯科補綴学分野にお世話になりました。しばらくは生体歯科補綴学分野で臨床と研究を継続していくのだろうと思っていた矢先、予防歯科からお声がけ頂き、知見を広げるために同講座に席を移すことになりました。治療から予防へ、ということで臨床内容に限らず研究内容も大きく異なる分野への移籍となりましたが、今までの臨床で学んだ知識を活かし予防歯科に貢献できるよう努力しているところです。

話は変わって趣味の話になりますが、最近釣りを始めました。毎回釣れるわけではないのですが、釣れた時の喜びが大きいのと、釣った魚を自分で捌いて料理する楽しさ、美味しさを知ってし

まうと中々やめられないなあと感じている自分が居ます。釣りはとても楽しいのですが、一度夢中になっていて磯場から海に転落した事があり、自然の怖さを体感したのでそれ以降の釣行では足場により一層気をつけるようになりました。釣り以外には、冬場にスキーを楽しんでいます。一昨年度は雪がなかったため行くことができず、昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い病院からウィンタースポーツ禁止との指示が出ていたため、人生で初めて2年連続でスキーに行くことができませんでした。今年こそは新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、スキーを楽しめることを期待して冬を待っています。

続いて、研究の話をしていただきます。現在、大学院の頃から研究していた炭化ケイ素繊維を用いた繊維強化型レジンについての研究を進めています。歯科治療において、ガラス繊維強化型レジンが修復材料として使用され始めていますが、デメリットがあるため、それを改良するために炭化ケイ素繊維をガラス繊維の代替として使用できないかを研究しています。また、予防歯科に来てからは、義歯の使用状況が高齢者の栄養状態に及ぼす影響についての研究を始めさせていただきました。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、中々対象者が集まらずに苦労しておりますが、ワクチン接種も始まりましたので今年は対象者が順調に集まることを期待して準備を進めております。

最後に、未熟者ではございますが新潟大学歯学部発展のために尽力していく所存です。皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。





組織再建口腔外科学分野

佐久間 英 伸

2020年8月1日付で、組織再建口腔外科学分野の助教を拝命しました佐久間英伸と申します。素顔拝見の執筆の機会をいただきましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

出身は山形県鶴岡市（旧東田川群籾引町）と住所から分かるように田舎で育ちました（ちなみに地図では、山形県のたれ目の位置の町でした）。高校には自転車で30-40分かけて通学するという今では考えられないような健康的な生活を送っておりました。大学は愛知学院大学歯学部です。卒業後は、名古屋第一赤十字病院歯科口腔外科での研修（後期研修を含め3年）後に、愛知学院大学大学院に進学しました。大学院では、摂食・嚥下中枢のリズム活動に関する研究で、新生仔ラット（0-6日）の脳幹スライス標本を作製し、舌下神経運動ニューロン活動をパッチクランプ法で記録を取っていました。新生仔ラットを実験で使用するため、自家繁殖で、新生仔が生まれたら実験を行うという、ラット次第の生活を約3年送りました。その間、母親ラットに噛まれ、熱が出たりと色々ありましたが、無事大学院を卒業し、その後は、当時所属していた愛知学院大学顎顔面外科講座の関連病院で口腔外科医として勤務しておりました。お気づきの方もいるかと思いますが、ここまで、まったく新潟と接点のない人生を過ごしていました。人生の転機とはいつ、どこにあるかはわからないものです。今から約5年前ですが、家庭の諸事情（私は次男なのですが、長男と父親がまさかの喧嘩別れ）で実家近くに戻ることを要求されました。その時までは、自分は次男だし、このまま愛知県内の関連病院で口腔外科をしていくつもりでいました。まさかの身内の介入により人生プランの変更を強いられた瞬間でした。そこで、前所属講座の当時教授でした下郷和雄先生にご相談したところ、小林正治教授にお会いする機

会をいただきました。そして、小林教授の御厚意で、2017年4月から組織再建口腔外科学分野でお世話になっております。組織再建外科学講座に入局した当初は、文化の違いではありませんが、手術の作法、使用器具の違いなどに戸惑いましたが、今では新潟色を取り入れながら、日々の臨床にあたっております。また、「県高（けんたか）」と言われ、「県立高田高校？」と誤認するくらい新潟について知らない状態で新潟に来ました（いまでは県高=新潟高校は知っています）。

このように少し変わった経緯で新潟大学に所属することになり、新潟では常識的なこと（？）も色々知らないこともあります。少しでも新潟大学歯学部および医歯学総合病院の発展に貢献できるように、臨床・研究・教育に努め、努力していく所存です。皆様どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



組織再建口腔外科学分野 助教

須 田 大 亮

令和3年5月1日より組織再建口腔外科学分野の助教を拝命いたしました、須田大亮と申します。この度、素顔拝見の原稿依頼をいただきましたので自己紹介をさせていただきますと思います。

出身地は長野県ですが、出生から幼稚園まで埼玉県の所沢市に住んでいたことがあります。しかしながら黄色い電車が通っていたことしか覚えていませんので特に語れることはありません。父の仕事の都合で転校を繰り返しており、小学校は長野県諏訪市、長野市、八千穂村（現在は佐久穂町）の3か所の小学校に通っていたことがあります。中学校は八千穂中学校で、高校は野沢北高校です。その後新潟大学歯学部歯学科に入学してから大学院に進学すると、本学部にお世話になり続けて15年が経過しました。改めて考えるとそんなに

長いのかと驚いてしまいました。

この歯学部ニュースが発行される頃にはもう東京オリンピックは閉幕していることかと思いますが、オリンピックイヤーにふさわしい話題として1998年の長野オリンピックの思い出があります。長野オリンピックの頃に長野市に住んでいたため、その空気感を味わうことができたのは貴重な思い出です。小学生だったの私の一番の関心は競技よりもオリンピックのピンバッジでした。大会期間中の大通りには多くのピンバッジの露店が出店され、色鮮やかなピンバッジが数十種類は並んでいたと思います。多くの店でピンバッジ同士の物々交換ができるのも新鮮でした。スノーレツのピンバッジ結構大事にしていたのですがどこに行ってしまったのかな…。同じような思い出がある方がいましたら是非お話ししたいです。

歯学部向けの思い出を挙げるとするならば、中学生のころ虫歯がなくて表彰されたことでしょうか。当時の八千穂村では学生の虫歯が多く問題になっていたようで、村の「福祉と健康の集い」というイベントで虫歯のない学生が表彰されていました。おそらくDMF指数が0の学生が表彰されたのだと思いますが、私の学年では私を含めて2人しか表彰されなかったの親に感謝したことがあります。思い返してみると歯科に興味を持ち、現在に至るきっかけとなった出来事だったかもしれません。おそらく現在も私はDMF指数を0でキープしていると思います。患者の苦しみがわからないとも言えますのであまりよくないなと思うのですが今後も頑張って0をキープしたいです。

私を紹介するうえで重要な事柄があるとすれば、それはテニスだと思います。高校生の頃からテニスを始め、本学部の硬式テニス部にも所属していました。高校も大学も大会でよい成績は収めることができなかったのですが、うまくボールを打てた時の爽快感に魅せられて長いこと続けます。週7でテニスをしてもまだ足りないと感じるくらい自分の一部だった頃がありました。最近はやがてプレーすることができないので、テレビで観戦して楽しんでます。特に私と同年のノバク・ジョコビッチ選手の活躍を見るのが好きです。彼は私の大学時代から現在まで、ずっとラ

ンキングのトップを維持しているすごい選手です。実はこの原稿も、今年の全仏オープンの決勝、ジョコビッチvsチチパスを生で見ながら書いています。たった今ジョコビッチ選手が逆転で優勝しました。ダブルキャリアグラウンドスラムです。強い。強すぎる。彼と同年の私もこれから助教として頑張れる気がしてきました。



顎顔面口腔外科学分野

齋藤 夕子

本年4月1日付けで顎顔面口腔外科学分野の助教を拝命いたしました齋藤夕子と申します。

3月31日までは新潟大学医歯学総合病院の病院専任助教でありましたが、本年度より歯学部の教育にも従事させていただくことになりました。今回、歯学部ニュースにおいて、このような機会を頂きましたので、僭越ながら自己紹介をさせていただきますと思います。

私は新潟大学歯学部を卒業後、新潟大学臨床研修センターで1年間の研修を終えて、顎顔面口腔外科に入局いたしました。大学院時代は口腔外科の診療に加え、生体組織再生工学分野の泉健次教授のもとで、ヒト口腔粘膜を用いた低酸素環境における口腔粘膜線維芽細胞の培養研究に3年間従事し、2017年3月に博士の学位を取得いたしました。大学院卒業後は1年新潟県外の病院に勤務し、2018年4月から当院勤務になっております。これまでは、教育というと臨床実習で学生のみなさんに関わる機会が多かったと思いますが、これからはそれ以外の学年のみなさんに関わる機会が増えることとなります。私の学生時代とは教育環境がかなり変わっていると思いますが、少しでも学生のみなさんの力になれるよう頑張っていきたいと思います。ちなみに、口腔外科は組織口腔再建外科学分野と顎顔面口腔外科学分野がありますが、どちらも現役医局員やOBの先生方に“サイトウ”という姓が多く、とても紛らわしい状況になっているかもしれませんが、何卒よろしくお願ひします。

私はそれほどこだわっている趣味はありません

が、気分転換したいなと思うと旅行をすることが多いです。ほとんどが国内旅行になりますが、家族にウイスキー好きがいるため、旅行の際にウイスキーの蒸留所見学に行くことがあります。蒸留所は、室内が非常に清潔に保たれており、貯蔵庫も趣があって、独特の雰囲気漂います。ウイスキーは国内外で広く製造されていますが、日本の銘柄で販売されていても、原酒は海外蒸留所のものを使用しているものもあり、製造の過程は複雑です。熟成にかなりの年数がかかるため、とても根気のいる作業だなと思いますが、熟成する樽の違い、熟成年数の違い、配合するウイスキーの種類の違いによって、全く違う風味がでます。長期に熟成したからといって、必ずしも良いウイスキーになるとは限らず、定期的にテイスティングをして、微妙な調整を行っています。実際に飲み比べてみると、味の違いがはっきりわかり、とても興味深いです。蒸留所見学は、製造工場などをみることができる以外に、蒸留所限定のウイスキーの購入や希少なウイスキー試飲をすることができますので、それほどウイスキーに詳しくない方でも十分楽しめるのではないのでしょうか。私は余市蒸留所や山崎蒸留所に行きたかったのですが、現在はCOVID-19の影響で県外・国外への移動はなかなか難しい状況ですので、実現できないのが非常に残念です。

最後になりましたが、これまでは口腔外科分野における外来診療、病棟業務、研究などに従事しておりましたが、今年度からは歯学部の教育にも携わる機会を頂きました。少しでも歯学部の教育に貢献できるよう、微力ながら尽力して参りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。



歯科総合診療科

中 村 太

助教に就任して

2020年9月1日付で助教を拝命いたしました中村太と申します。この度「素顔拝見」の執筆をご依頼賜りましたので、この場をお借りして改めて自己紹介をさせていただきます。

出身は柏崎市で、冬場は自分の身長より高く雪が積もるような山の中で育ちました。幼少期から体を動かすことが好きでいろいろ手を出しましたが、高校から大学にかけてはハンドボールに熱中していました。当時柏崎高校は新潟国体に向けたハンドボールの強化指定校になっていましたが、そんな状況など露知らず、何か新しいスポーツを始めたいなと部活に入ったが最後、その後の3年間はハンドボール漬けの毎日でした。新潟大学入学後は歯学部にハンドボール部がなかったため、五十嵐キャンパスで全学のハンドボール部で活動をしていましたが、同期が皆4年生で卒業したタイミングで引退をいたしました。その後は登山にはまり、仲間と旅行先で登山をした後温泉に浸かるといふ何とも贅沢な行いを趣味としていました。屋久島で縄文杉を見に往復9時間程かけて登山をしたり、水上温泉でラフティングに興じたり、筑波でハイキング後にコテージを借りてBBQを楽しんだりと今でもいい思い出です。そんな大学時代の登山仲間もだんだんと新潟を離れ、それに伴い私の体重も日に日に増加して参り

ました。現在では研修終了後から20kg体重が増え、まさに名は体を表す状態になっています。

研修終了後は藤井先生にお誘いいただき歯学教育研究開発学分野（現歯科臨床教育学分野）の大学院生として歯科総合診療科に入局させていただきました。大学院時代のエピソードではバイト先で探針が足首にささり、そこから*Streptococcus*に感染し10日ほど中央病院に入院したことがとても大変でした。受傷後は皮膚科を受診し抗菌薬を飲んで経過をみていましたが、歩くのに苦勞するほど痛みが強く、皮膚症状が出る数時間前はひどい悪寒と発熱がみられました。受傷後10日ほどでくるぶし付近の皮膚が壊死し、消毒した針で切開したところ血と膿がどぼどぼと出てきた際はことの重大さを実感しました。翌日整形外科経由で即入院、手術となりましたが、寝台で点滴を打たれたまま関係各所に電話で連絡を取ったことを覚えています。担当の先生からはCRPが23を超えていたと聞かされ、よく普通に動けたねと呆れられました。現在は経過も良好で特に支障はありませんが、しばらくは皮膚が引っ張られるような感覚で、足首の可動範囲も非常に狭くなっていました。現在はICMも拝命しておりますが、経験談から言わせていただくと、針刺しの際は流水で洗浄後患部をヨードで消毒することを強くお勧めさせていただきます。

まだまだ未熟者で足りない所が多々あり、ご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、日々努力しながら成長していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



う蝕学分野 助教

井田 貴子

2021年5月1日付で、う蝕学分野の助教を拝命致しました井田貴子と申します。この度、素顔拝見の執筆機会を頂きましたので自己紹介と近況に

ついて述べさせていただきます。思い返せば、歯学部ニュースは大学院生になって以降3度原稿依頼を頂いており、今回は約2年ぶり4度目の執筆になります。長年にわたり新潟大学で仕事ができることはとても感慨深いことだと改めて感じております。

出身は鳥取県境港市です。ご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、ゲゲゲの鬼太郎の作者である水木しげるさんの出身地でもあります。新潟大学歯学部への進学が決まり、新潟に移り住んで10年以上が経ち、今や新潟の地にすっかり馴染んでいます。ただ、新潟の冬の寒さはいまだ苦手です…。

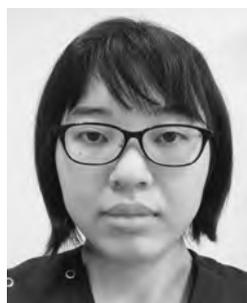
新潟大学歯学部41期生として入学し、卒業後1年目の前半半年間は福島県の病院に勤務し、残り半年間は新潟大学冠ブリッジ診療科で研修を行い、そのまま生体歯科補綴学分野の大学院へ進学しました。大学の補綴専門診療科ということもあり、多様な症例を担当させて頂き、日夜勉強させて頂きました。また、他の診療科の先生方とも連携しながら治療を進められたことも非常に有難いことでした。

学位研究では魚島勝美教授、加来 賢准教授のご指導のもと、骨質（Bone Quality）が骨代謝関連細胞に与える影響を解析しました。国内外の学会で発表する機会を何度か得て、The 9th Congress of Asian Academy Osseointegration (AAO)にてBest Oral Presentation Awardを、学位論文については日本補綴歯科学会奨励論文賞を受賞することができました。また、米国の大学を訪問し、米国の歯学部教育や補綴学に関連する基礎研究に触れる機会も頂きました。さらに、大学院4年目から2年間、日本学術振興会特別研究員に採用して頂き、研究に専念させて頂きました。2020年4月からは高度口腔機能教育研究センターに所属し、前田健康歯学部長、佐伯万騎男教授のご指導のもと基礎研究に従事しました。

2021年4月よりう蝕学分野へ異動となり、早いもので2か月が経ちました。野村由一郎教授をはじめ、う蝕学分野の先生方には温かく迎えて頂き、大変感謝しております。新たに新潟大学へ赴

任された先生を含め、新任教員3名で切磋琢磨しながら診療、研究、教育に携わる日々を送っております。

現在の自分があるのは、学部学生のころからご指導頂いている先生方をはじめ、先輩・後輩の先生方とも各診療科・分野の垣根を越えてコミュニケーションが取れる環境に恵まれていたからであり、これからは母校である新潟大学およびお世話になった諸先生方に少しでも恩返しができるよう精進していきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



う蝕学分野 助教

外園 真規

2021年4月1日付でう蝕学分野の助教を拝命いたしました外園真規(そとこのまき)と申します。素顔拝見の執筆の機会をいただきましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

私は兵庫県尼崎市の出身です。尼崎市は兵庫県の南東部に位置しており、非常に交通の便の良い場所です。中学・高校は奈良県へ自宅から片道1時間半ほどかけて通っていました。現在は奈良まで乗り換えなしで行くことが出来ますが、私が高校生頃はまだ路線が開通しておらず、電車を取り継いで通学していました。大学は大阪大学歯学

部を卒業し、大阪大学歯学部附属病院の歯科保存学教室で研修医、大学院とお世話になりました。

私が保存修復治療・歯内治療に興味を持ったのは6回生の臨床実習でした。痛みを訴えて来院される患者さんに対して原因を特定し、その原因に対して様々な器具、機器を用いて治療を行う先生方の姿に憧れ、入局を決めました。

大学院では睡眠とデンタルバイオフィルムに関する研究を行っていました。睡眠をテーマとしていたため、実験サンプル採取が夜中になることもあり、大学に泊まり込んで実験をしていたのもいい思い出です。今後もデンタルバイオフィルム、口腔バイオフィルムに関して研究を続けていきたいと考えています。

関西を離れて生活することになり、非常に緊張していましたが、野杵教授をはじめう蝕学分野の先生方や病院のスタッフの皆様のおかげで診療、研究、教育と充実した生活をおくっております。新潟大学歯学部の教育はとても充実していると感じます。特に、治療計画を自分で立てて治療を実践する総合模型実習は私もやりたいくらいです。

新潟に来て思ったことは、ご飯がおいしい(お米だけでなく、魚・肉・野菜全部おいしい、そして安い)ことでした。スーパーにたくさんの産地のお米が売っていることも驚きでした。1種類ずつ試していますが、完全制覇はまだまだ先になりそうです。

最後になりましたが、う蝕学分野と新潟大学の発展に貢献できるよう、日々精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。